

## シラバス

科目No K-006 科目名 英語	配当時期 2年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 徳江武 担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標			
ねらい: 1. 看護師として英語でコミュニケーションするのに必要なスキルを習得する。 2. 将来、医学や看護に関する文献を読むために、医学用語の理解を深める。			
目 標: 1. 看護師として英語でコミュニケーションするのに必要な単語や語句が使える。 2. 看護に関する英会話を聞いて、理解することができる。 3. 看護に役立つ専門用語が使える。			
DPとの関連			
DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。			
DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。			
DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	患者登録と生活習慣アンケートに必要な語句が使える。	講義・演習	
2	生活習慣アンケートに必要な語句が使える。	講義・演習	
3	病歴を尋ねるのに必要な語句が使える。	講義・演習	
4	症状を尋ねるのに必要な語句が使える。	講義・演習	
5	バイタル・サインの確認に必要な語句が使える。	講義・演習	
6	検体の採取に必要な語句が使える。	講義・演習	
7	検査時に必要な語句が使える。	講義・演習	
8	痛みを調べるのに必要な語句が使える。	講義・演習	
9	薬についての助言に必要な語句が使える。	講義・演習	
10	機能回復の援助に必要な語句が使える。	講義・演習	
11	食事についての助言に必要な語句が使える。	講義・演習	
12	入院患者ケアに必要な語句が使える。	講義・演習	
13	入院患者ケアに必要な語句が使える。	講義・演習	
14	緊急事態で必要な語句が使える。	講義・演習	
15	緊急事態で必要な語句が使える。	講義・演習	
※英会話の練習を楽しんでほしい。また、日ごろから英会話に親しむことでコミュニケーション能力を高め、自信をつけてほしい。			
受講上の注意 授業で難しかった課題にもう一度取り組み、知らなかつた単語を覚えるとよい。 一か月後にもう一度、復習するとよい。これにより、知識が長期間、記憶に残る。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト Caring for People <Cengage Learning>			
参考文献			

## シラバス

科目No K-007	配当時期 2年次	講義担当者	
科目名 家族論	単位数 1単位	田中豊治 担当者の実務経験	
	時間数 30時間(15回)		
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>			
<p>目的 人間にとっての家族の意義や家族の機能を多角的に理解し、対象のより良い生活のための家族支援に役立てることができる。</p> <p>目標 1.家族の構造・機能を含めて家族とは何かについて考えることができる。      2.パートナーシップおよびさまざまな家族の在り方について考えることができる。      3.家族のそれぞれの構成員が家族生活を営む上でどのように機能しているか理解できる。      4.家族の社会的機能を理解できる。</p>			
DPとの関連			
<p>DP1 家族及び家族構成員は、それぞれ多様な価値観をもつ人として多角的に捉え理解することができる。</p> <p>DP2 人間形成の基盤となる家族の構造と機能について考えることができる。</p> <p>DP5 患者・家族を生活者として捉えることができる。</p> <p>DP6 家族と社会について考えることができる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	
1	家族とは何か、家族の歴史および家族の存在意味について理解できる。	講義 グループワーク	
2	現代家族の多様化について理解できる。		
3	家族の発達と成長について理解できる。		
4	現代家族の課題について考えることができる。(高齢独居)		
5	現代家族の課題について考えることができる。(核家族化)		
6	子どもの視点から見た家族について理解できる。	DVD グループワーク	
7	高齢者の視点から見た家族について理解できる。		
8	さまざまな家族のかたちについて理解できる。		
9	さまざまな家族のアセスメントができる。		
10	家族看護を支える理論と介入について理解できる。 (家族の発達理論)	講義 グループワーク	
11	家族看護を支える理論と介入について理解できる。 (変化をもたらすための介入)		
12	家族支援のあり方について理解できる。	講義	
13	家族看護の展開方法が理解できる。	講義 グループワーク	
14	家族看護の展開方法が理解できる。		
15	まとめ	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修問題 目標 II-8-A～B			
受講上の注意		評価方法 レポート40% 筆記試験60%	
使用するテキスト 系統看護学講座「家族看護論」医学書院 随時資料配布			
参考文献 講義の中で随時提示する			

## シラバス

科目No K-014	配当時期 2年次 前期	講義担当者 今井竜也
科目名 人間と法	単位数 1単位 時間数 15時間(8回)	担当者の実務経験

## 科目全体のねらい・授業目標

- 目的 日本国憲法について、歴史的意義・基本原理をふまえ、近代市民法の基本原理を理解したうえで人権に関する諸問題を学び、基本的な法的素養を身につける。
- 目標 1.社会における「法」および「法律」の存在意義について理解することができる。  
 2.「法」および「法律」と「人権」の関係性について理解し、基本的人権について説明できる。  
 3.人びとの生活に関連した法律と現代社会を取り巻くさまざまな法的問題について理解できる。  
 4.医療職者として自分の責任と能力の範囲内で実践できる基本的人権の擁護について説明できる。

## DPとの関連

DP1 「生命の尊厳、生命平等」の根源となる日本国憲法について理解する。

DP2 「人権」の保障は法律の存在があることに気づき、関係性について理解する。

DP3 現代に残存する問題について理解し、法律によってどのような解決ができるのか考える。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	「法」および「法律」の存在意義について理解できる。	講義	
2	「法」および「法律」における生活の保障について理解できる。	講義	
3	「法」および「法律」における「人権」保障とマイノリティについて理解できる。	講義	
4	被差別集団および個人に対する法的な差別の問題について理解できる。	講義・グループワーク	レポート
5	少数者意見の表明と保障の問題について理解できる。	講義・グループワーク	レポート
6	性的マイノリティと人権保障の問題について理解できる。	講義・グループワーク	レポート
7	人権問題と人権制限の関係について理解できる。	講義・グループワーク	レポート
8	日本における地方問題と法律との関係について理解できる。	講義・グループワーク	レポート

## 受講上の注意

事前学習を提示する場合がある。

学習内容を確認し、問題意識をもち講義に臨むこと

## 評価方法

レポート課題で評価する

## 使用するテキスト

## 参考文献

看護学生必携資料集

シラバス		配当時期 2年次	講義担当者 藤戸 博		
科目No SK-011  薬物療法	単位数 1単位  時間数 15時間(8回)		担当者の実務経験		
科目全体のねらい・授業目標					
ねらい: 薬理学概論で学んだ知識や病気に対する知識をもとに、病気についた薬物療法を具体的に学ぶ。 薬物療法を受ける患者の看護を具体的に考えて実践できる知識を学ぶ。					
目標: 1. 各疾患の薬物療法についての基礎知識を学ぶ。 2. 薬物療法を受けている人に対し、治療効果の観察や有害な副作用を早期に発見できる知識を理解する。					
DPとの関連					
DP4 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。					
DP5 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践することができる。					
DP6 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、多職種との連携協働しながら多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。					
DP7 専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続けることができる。					
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	1. 抗がん剤の作用様式を説明できる。 2. 抗がん剤の使用上の注意点を説明できる。 癌性疼痛の管理方法と薬物療法(麻薬含む)について説明できる。	3.	講義		
2	1. 免疫の仕組みや自己免疫疾患について説明できる。 2. 免疫作用薬の適応疾患と副作用を説明できる。 3. 抗アレルギー薬の適応疾患と副作用を説明できる。 4. ステロイド剤の適応疾患と副作用を説明できる。		講義		
3	1. 自律神経作用薬の作用様式を説明できる。 2. 自律神経作用薬の適応疾患と副作用を説明できる。		講義		
4	1. 中枢神経系に作用する薬物の作用様式を説明できる。 2. 麻酔薬の特徴を説明できる。 3. 精神薬の適応疾患と副作用を説明できる。		講義		
5	1. 循環器・血液作用薬の作用様式を説明できる。 2. 循環器・血液作用薬の適応疾患と副作用を説明できる。 3. 輸血について適応と有害作用を説明できる。		講義		
6	1. 呼吸器・消化器に作用する薬物の作用様式を説明できる。 2. 呼吸器系に作用する薬の適応疾患と副作用を説明できる。 3. 消化器系に作用する薬の適応疾患と副作用を説明できる。		講義		
7	1. 生殖系に作用する薬物の作用様式と適応疾患・副作用を説明できる。 2. 物質代謝に作用する薬物の作用様式と適応疾患・副作用を説明できる。		講義		
8	1. 外用薬(皮膚科・眼科)の適応疾患と副作用を説明できる。 2. 救急治療薬の特徴と適応疾患が説明できる。 3. 輸液の種類と適応疾患が説明できる。		講義		
【看護師国家試験出題基準との関連】					
必修問題 目標III-12-A～B					
受講上の注意		評価方法 試験 80% 小テスト 20%			
1. 関連科目(特に人のしくみと病気、病理学)との関連を復習しながら授業に参加すること。 2. 1年次に薬物概論で学習した看護師として、薬物療法にどのようにかかわるのかを想起しながら積極的に参加してほしい。					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(3)薬理学:医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 :医学書院					
参考文献					
コメディカルのための薬理学:朝倉書店					

シラバス

科目No	SK-014	配当時期 前期	2年次	講義担当者
科目名	治療論 I (リハビリテーション)	単位数	1単位	横尾正博 伊賀信也
		時間数	15時間	他 経験年数

科目全体のねらい・授業目標

- 1.リハビリテーションの概念と看護の位置づけを理解する。
- 2.リハビリテーション技術を学び、患者自立のためのADLの再習得に向けた看護の実際を理解することができる。

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。

- DPとの関連 4. 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身についている。  
 5. 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。

授業の流れ

回	学習内容と成果	講師	備考
1	リハビリテーションの定義と理念が理解できる	伊賀信也(OT)	資料
2	疾病・障害・生活機能の分類、リハビリテーションの分野が理解できる。	伊賀信也 (OT)	資料
3	運動器系の障害とリハビリテーションが理解できる。	榎 英一(PT)	資料
4	中枢神経系の障害とリハビリテーションが理解できる	伊賀信也(OT)	資料
5	中枢神経系の障害とリハビリテーションが理解できる	横尾正博(PT)	資料
6	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーションが理解できる。	横尾正博(PT)	資料
7	感覚器系の障害とリハビリテーションが理解できる。	岩崎裕子(ST)	資料
8	リハビリテーション看護の必要性が理解できる。	西田香織(NS)	資料

【看護師国家試験出題基準との関連】

疾病的成り立ちと回復の促進 目標III-4-C

成人看護学 目標IV-7-A～E

受講上の注意

人の体のしくみと病気や病理学等の既習の学習を生かして学習すること。

評価方法

試験

使用するテキスト

系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

参考文献

系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論

## シラバス

科目No SK-015	配当時期 2年次	講義担当者 工藤 祥 江藤 英博
科目名 治療論 II (放射線治療)	単位数 1	実務経験年数
	時間数 15時間	

### 科目全体のねらい・授業目標

放射線の医療利用(放射線診断、放射線治療)、人体への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線診療の際の患者や医療者の被ばく防護対策を学ぶ。

- DPとの関連
- 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。
  - 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身についている。
  - 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。

### 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	放射線とは何か、放射線同位元素とは何か、放射線の種類、発生、医学的用途、非医学的用途が理解できる。	講義	工藤
2	X線診断・造影X線検査・CT検査とは何か、その看護の意義は何かが分かる。	講義	工藤
3	超音波検査・MR検査I・核医学検査とは何か、その看護の意義は何かが分かる。	講義	工藤
4	造影検査・IVRとは何か、その看護の意義は何か、および造影剤副作用の予防と看護がわかる。	講義	工藤
5	放射線防護の必要性と放射線被ばく防止策について理解できる。放射線治	講義	工藤
6	放射線治療の種類、特徴と目的が理解できる。	講義	江藤
7	放射線治療の方法と看護の必要性が分かる。	講義	江藤
8	放射線治療に伴う有害反応とその予防法と看護が分かる。	講義	江藤

### 【看護師国家試験出題基準との関連】

疾病の成り立ちと回復の促進 目標III-4-A、C  
演習到達度 I

受講上の注意	評価方法 試験
--------	------------

### 使用するテキスト

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

### 参考文献

- 日本医学放射線学会 放射線科の紹介 [radiology.jp/public/radiation.html](http://radiology.jp/public/radiation.html)
- 日本核医学会 市民の皆様へ [jsnm.org/press/onegai/](http://jsnm.org/press/onegai/)
- 日本放射線腫瘍学会 一般向け <https://www.jastro.or.jp/customer/>
- 放射線影響協会 放射線の影響がわかる本 2020年版 [www.rea.or.jp/wakaruhon/kaitei2020/wakaruhon\\_main\\_.html](http://www.rea.or.jp/wakaruhon/kaitei2020/wakaruhon_main_.html)
- 文部科学省 知っておきたい放射線のこと 高校生用 [www.mext.go.jp/b\\_menu/shuppan/sonota/attach/1314239.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1314239.htm)

シラバス

科目No SK-016 治療論III(外科・手術療法)	配当時期: 2年前期 単位数 1単位 時間数 15時間	講義担当者 下西智徳、中山紫季 担当者の実務経験		
科目全体のねらい・授業目標				
目的	外科的治療の実際を知ることにより、手術侵襲などが人体に与える影響を考えることができる。			
目標	1.外科的治療の内容・方法が理解できる。 2.手術療法の内容が理解できる。			
DPとの関連				
1.身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 4.科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 5.生活者として健康の保持、増進、疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	第1章 外科医療の基礎	講義	下西先生 外科医師	
2	第2章 外科治療を要する疾患・症状	講義	外科医師	
3	第2章 外科治療を要する疾患・症状	講義	外科医師	
4	第3章 外科治療を支える分野	講義	外科医師	
5	第3章 外科治療を支える分野	講義	外科医師	
6	第4章 外科治療の実際	講義	外科医師	
7	救急医療の現状が理解できる	講義	中山先生	
8	主要病態に対する救急処置と看護	講義		
【看護師国家試験出題基準との関連】 必修目標III-10-B、11-A-a、b 疾病の成り立ちと回復の促進 目標III-4-C 成人看護学 目標II-3-A～C、目標II-4-A～B、目標II-5-A～E				
受講上の注意 テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 予習復習を習慣づけること	評価方法 筆記100点			
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 系統看護学講座 別巻 救急看護学				

## シラバス

科目N SK-018 社会保障制度 I	配当時期 2年次 前期 単位数 2単位 時間数 30時間	講義担当者 古賀 理 担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標			
人間の権利である生存権に根ざした社会保障および社会福祉制度について理解する。			
目標 1.生活を支える社会保障および社会福祉の基礎な構造や内容について理解する。 2.年金・医療・福祉の制度について関連性を理解する。 3.社会背景および事象に関心をもち、生活者としての人と社会の関連について考える ことができる。 4.生活に根ざした今後の社会保障および社会福祉制度について考えることができる。			
DPとの関連			
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。 DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護実践ができる。 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	生活の場としての社会を理解し、社会保障および社会福祉制度の体系について理解する。(社会保障・社会福祉と生活)	講義	
2	法制度、財政、サービス提供のしくみについて理解する。(社会保障制度)	講義	
3	医療保障制度の構造と体系について理解する。	講義	
4	健康保険と国民健康保険制度について理解する。	講義	
5	介護保険の基本理念および制度の内容について理解する。	講義	
6	被保険者、要介護・要支援認定およびサービスについて理解する。(介護保険)	講義	
7	保険給付および財政と今後の課題と展望について理解する。(介護保険)	講義	
8	所得保障制度のしくみについて理解する。	講義	
9	貧困・低所得者を守るための公的扶助制度について理解する。(公的扶助)	講義	
10	生活保護制度と近年の動向について理解する。(公的扶助)	講義	
11	高齢者福祉の法制度の理念や構造を理解し、現代社会の課題について 考える。	講義・グループワーク	
12	母子に関する法制度の理念や構造を理解し、現代社会の課題について理解する。 (児童家庭福祉)	講義・グループワーク	
13	児童に関する法制度の理念や構造を理解し、現代社会の課題について理解する。 (児童家庭福祉)	講義・グループワーク	
14	社会福祉援助とは何かを考え、生活支援のあり方について理解する。	講義	
15	社会福祉援助における就労保障とその具体的な支援について考える。	グループワーク	
【看護師国家試験出題基準との関連】			
必修問題 目標 I-3-A～B 健康支援と社会保障制度 目標 I-1-A～C、目標 II-4-A～B、目標 II-5-A～E、目標 II-6-A～H			
受講上の注意  社会背景および事象に関心をもち、生活者として社会保障・社会福祉制度の課題を考えながら講義に臨ん でほしい。		評価方法 筆記試験 100%	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 (医学書院)			
参考文献 新・社会福祉養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 (医学書院)			

科目No -SK019 社会保障制度 II	配当時期 2年後期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 古賀 理 担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標			
<p>障がいとは何かを適切に捉え、生活者としての自立・生活支援のあり方について理解できる。</p> <p>目標 1. 「障害」の見方と障害者を取り巻く社会情勢・生活の実態について理解する。      2. 障害者に関する法制度について理解する。      3. 障害児・者の自立・生活支援のための法規について理解できる。      4. 障害者福祉の理念と意義について理解することができる。      5. 障害児・者がもつ生活上の課題を理解し、自立に向けた援助・支援のあり方を考えることができる。</p>			
DPとの関連			
<p>DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。</p> <p>DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。</p> <p>DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関する看護の実践ができる。</p> <p>DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	「障害者」を取り巻く社会情勢と生活の実態から、障がい者の捉え方と障害者権利条約について理解する。	講義	
2	「障害」とは何かを考え、生活者としての権利について理解する。(障害者権利)	講義 グループワーク 発表	
3	障害者基本法、身体・知的障害者法、精神保健福祉法、発達障害支援法について理解する。	講義	
4	障害者虐待防止法、雇用法、保健・医療関係、年金・手当について理解する。	講義	
5	障害者自立支援法の理念・考え方と行政の施策について理解する。	講義	
6	介護給付費および特例介護給付について理解する。(自立支援給付)	講義	
7	訓練等給付、自立支援給付、地域相談支援給付について理解する。(自立支援給付)	講義	
8	地域生活支援事業について理解する。	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】			
必修問題 目標 I-3-A～B 健康支援と社会保障制度 目標 I-1-A～C、目標 II-4-A～B、目標 II-5-A～E 目標 II-6-A～H			
受講上の注意 グループワークは、自己学習を行い積極的に参加すること		評価方法 筆記試験 60% ワークの取り組み、レポート提出 40%	
使用するテキスト 新・社会福祉養成講座 第14巻 障害者に対する支援と障害者自立支援制度-障害者福祉論			

## シラバス

科目No-SK020 関係法規	配当時期 2年前期 単位数 1単位 時間数 15時間	講義担当者 柴田 滋 担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標			
保健・医療に関する法規を学び、医療従事者としての責務と義務を自覚するとともに、現代の医療制度における課題を理解することができる。			
<b>目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に関連した法律を理解する。</li> <li>2. 看護職を規定する法律や関係法規について理解する。</li> <li>3. 看護者が行う医療行為の法的位置づけを理解する。</li> <li>4. 医療を取り巻くさまざまな法的問題から現代の医療制度における課題について考えることができる。</li> <li>5. 医療を取り巻くさまざまな法的問題と看護師としての責務を自覚することができる。</li> </ol>			
DPとの関連			
DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。			
DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。			
DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	法の概念と医療の関係性について理解できる。 (医療と法規)	講義	
2	保健師助産師看護師法について理解する。	講義	
3	医療法、医療関係資格法について理解する。	講義	
4	地域・精神・母子・感染症に関する法について理解する。 (保健衛生法)	講義	
5	医薬品の安全性の確保に関する法律を理解する。 (薬務法)	講義	
6	健康保険法と介護保険法、年金について理解する。 (社会保健法)	講義	
7	労働基準法、労働安全衛生法について理解する。 (労働法と社会基盤整備)	講義	
8	医療に関連する民事・刑事法を学び、医療従事者としての責務を考える。 (民事法と刑事法)	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】			
必修問題 目標 I-4-A、C 目標 I-5-A 健康支援と社会保障制度 目標 II-4-A～B、目標 II-5-A～E、目標 IV-12-A～B			
受講上の注意 現代社会の背景をふまえ、医療現場の過去と現在そして未来を考え、法規と医療の関連について問題意識をもち、看護の専門性を考察しながら受講すること。		評価方法 筆記試験 90% レポート課題 10%	
使用するテキスト 系統別看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令（医学書院）			
参考文献 新体系 看護学書 健康支援と社会保障制度④ 関係法規			

シラバス

科目No SN-006 看護技術Ⅱ(治療処置)	配当時期 単位数 時間数	2年次 2単位 60時間	講義担当者 安徳 秀子 担当者の実務経験 34年
----------------------------	--------------------	--------------------	-----------------------------------

科目全体のねらい・授業目標

ねらい 診断・検査・治療に関連した生活援助としての看護実践に必要な、診断・治療の意義・目的を理解する。また、診断・治療を受ける対象への援助技術を科学的根拠に基づき修得する。

- 目標
1. 診断過程における診察と検査の意義を理解できる。
  2. 主な治療法・処置の種類・目的・原理原則を理解し、看護の役割と援助の基盤を学ぶ。
  3. 急変時の生理的变化に適した看護行為の基盤が理解できる。
  4. 医療機器の原理と実際を知り、援助の方法を学ぶ。

DPとの関連

DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。

DP4:科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。

DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。

DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。

DP7:看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法を理解できる。

授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	演習到達レベル
1	臨床検査の意義、目的および安全・安楽かつ確実な診断・検査の実施に求められる看護の役割・責務について学ぶ	講義	
2・3	感染予防のための無菌操作、消毒法が理解でき実践できる。 無菌操作・滅菌物の取り扱いができる 感染性廃棄物の取り扱いができる	講義・演習	I
4～6	膀胱留置カテーテルおよび導尿の目的および留意事項とその看護について理解し、無菌操作に基づいた取り扱いができる。		II
7	創傷の治癒過程がわかり、創傷治癒のための環境作りができる。	講義	I
8・9	褥瘡の基礎知識を理解し、必要に応じた予防・処置ができる	講義・演習	II
10・11	検体検査(血液検査・尿検査・便検査・喀痰検査)の意義・目的・検査の実施に求められる看護師の役割について学ぶ	講義	I
12・13	①静脈血採血の実際(真空採血管とシリンジを用いた採血) ②検体(尿・血液等)の取り扱いの実際	演習	①—I ②—I
14・15	薬物療法の種類とその目的を学び、薬物療法における看護師の役割について理解できる。	講義	I
16	経口与薬、直腸内与薬、経皮・外用薬与薬の留意点とその実際を理解できる。	演習	II
17～19	筋肉内注射・点滴内静脈注射が安全に実施できる。	演習	II
20	輸血療法の目的および留意点を学び、看護の役割について理解できる。	講義	II
21・22	酸素吸入療法の基礎知識と援助方法の理解と実践ができる。	講義・演習	I
23～25	排痰ケアの実践と理解ができる。 ①体位ドレナージ ②吸入 ③口腔内・気管内吸引・持続吸引	講義・演習	①—I ②—I ③—II

回	学習内容と成果	方法	演習到達レベル
26	生命の安全を確保するための、救命処置の重要性を理解し、救命処置についての知識が理解できる	講義	I
27	止血法・胃洗浄・急変時の対応・援助の方法が理解できる。	講義	止血法: I 急変時の対応: I
28	心肺蘇生法・止血法の実際 一次救命処置(BSL)の技術が習得できる	演習	
29	検査・モニタリング・処置におけるME機器の基礎知識について理解できる。	講義	
30	ME機器取り扱いの実際	演習	II
卒業時の到達レベル(演習) I : モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。 II : モデル人形もしくは学生間で指導のもと実施できる。			評価方法 筆記試験 出席状況 受講態度 課題提出
<b>【看護師国家試験出題基準との関連】</b> 必修目標III 11-C 必修目標IV 15-B, C 必修目標IV 16-A, B, C, D, E, F, G, H 基礎看護学 目標 II-3-F, G 目標 II-5-A~F			
<b>受講上の注意</b> 1. 講義で不明な点などは積極的に質問をする。また、予習・復習をする。 2. 技術評価の受験までには十分な練習を行う。試験後も技術習得のために練習を計画的に行う。 ※レポート課題や技術試験については適宜提示する。 *技術練習における同意書確認			
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学3 基礎看護技術 II 医学書院			
<b>参考文献</b> 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研			

シラバス

科目No	SN-009 看護過程と臨床判断能力 II	配当時期 単位数 時間数	2年次前期 1単位 30時間	講義担当者 田中 雅美 担当者の実務経験
------	--------------------------	--------------------	----------------------	----------------------------

科目全体のねらい・授業目標

- 看護を過程的に展開する概念を理解することができる。
- 看護過程の基礎的知識を習得し、看護の場面で活用できる基礎的能力を身に付けることができる。
- 看護を過程的に展開する方法について理解することができる。
- 看護理論に基づき、対象者を全人的に理解する基礎的能力を身に付けることができる。
- 対象の変化や反応に関心を向け、その対応について考えることができる。

DPとの関連

- DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。  
 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。  
 DP7 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法を理解できる。

授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護過程とは何かを理解する。(看護過程と臨床判断能力)	講義・LTD	
2	看護診断とは何か理解することができる。	講義	
3	看護過程の構成要素と看護上の問題について理解できる。	講義・演習	
4	情報収集の方法と情報分析について理解できる。 (情報収集とその分析)	講義・演習	
5		演習	
6	情報と根拠を関連づけ、アセスメントした内容から対象の全体像を把握することができる。(情報の関連付けと関連図)	講義・演習	
7		演習	
8	看護上の問題を明らかにし、看護目標を設定し看護計画を立案することができる。	講義・演習	
9		演習	
10	看護計画の発表	演習	
11	日々の『観察』と『気づき』から看護の方向性を検討し、その評価と修正の視点について理解できる。(看護過程の展開)	講義・演習	
12		シミュレーション	
13	看護実践の評価と修正ができる。(看護過程の展開)	シミュレーション	
14	看護実践の評価と修正ができる。(看護過程の展開)	シミュレーション	
15	日々の看護の中での『気づき』を看護実践に活かす手段を理解する。(看護師のように考え方行動するとは)	講義	

【看護師国家試験出題基準との関連】

基礎看護学 目標 I-2-B 目標 II-3-B～D

受講上の注意

看護を実践する際の大切な科目です。臨床判断能力は看護師のように考えて行動できるようになることです。そのため、実際の看護の場面を想定する内容になっています。また、各発達段階および各専門領域の看護に発展する科目です。必要な課題に事前に取り組み、授業に臨んで下さい。

評価方法  
講義・演習の参加度  
リフレクションシート  
各課題提出状況  
筆記試験

使用するテキスト

医学書院 基礎看護技術 I  
メディックメディア 看護がみえる4 看護過程の展開

参考文献

適宜提示する。

## シラバス

科目No	SN-010	配当時期 単位数 時間数	2年次 1単位 30時間	講義担当者 七種彩子 担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標				
1. 看護にかかわる研究成果の収集とその応用のための基本的な方法を修得する。 2. 看護の実践を積み重ねる過程で専門性を高めていくための研究態度を身につける。				
3. 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 DPとの関連 4. 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 7. 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	看護研究の目的と意義を理解する。	講義		
2	看護研究のはじめ方—リサーチクエスチョンを立てることが分かる—	講義・演習		
3	情報の探索と吟味—文献レビューとその方法が分かる—	講義		
4	研究における倫理的配慮とは何かが分かる	講義		
5	研究デザインの選択とデータ収集・分析の方法が分かる	講義		
6	研究成果の発表の意義と方法(論文作成・プレゼンテーション)が分かる	講義		
7	研究計画書の必要性と作成方法が理解できる	講義・演習		
8	グループ研究:研究計画書を作成する	演習	研究計画書提出	
9	グループ研究:看護研究の実践(調査・実験・文献研究)	演習		
10				
11	グループ研究:研究論文と発表資料作成	演習		
12	グループ研究:発表・まとめ	講義		
13	ケーススタディの進め方・論文作成(基礎看護学実習Ⅲの事例)	講義・演習		
14	ケーススタディ:研究論文と発表資料作成	演習		
15	ケーススタディ:研究論文と発表資料作成(ケーススタディの発表)	講義		
受講上の注意				評価方法
・研究は自己研修などを有効に使って実施していくこと。 ・提出期限は厳守すること。 ・ケーススタディ・グループ研究ともに積極的に担当教員に相談、指導を受けながらグループ全員で取り組むこと。				研究への取り組みルーブリック評価
使用するテキスト				
1. 統要看護学講座 別巻 看護研究 医学書院				
参考文献				

## シラバス

科目No 地域・在宅看護方法論Ⅰ	配当時期 2年生前期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 犬丸 小百合	
		担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標			
<p>1. 地域で療養生活を送る人と家族の看護に必要なアセスメントができる      2. 地域で療養生活を送る人に必要な基本的日常生活の方法と技術を安全安楽に実施する方法を修得することができる      3. 地域で療養生活を送る人とその家族への支援のあり方と、個別性に応じた看護の方法や創意・工夫について考え実施することができる</p>			
DPとの関連			
<p>DP1：人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。      DP3：看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。      DP4：科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。      DP5：生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。      DP7：専門職者としての責任を自覚し、常に向上心をもって行動することができる。</p>			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	地域・在宅で療養生活を送る人と家族の看護の必要性を理解できる A.療養者と家族の思いから始まる看護 B.さまざまな人たちが力を合わせる看護	講義	
2	暮らしを支える看護を理解し実践できる A.暮らしを支える看護を実践するための構えを理解できる	講義・演習	
3	B.地域・在宅で療養生活を支えるための対話が、コミュニケーション技術を理解し実践できる 【演習】ロールプレイ		
4	C.地域・在宅看護における家族を支える看護を理解することができる	講義	
5	D.地域・在宅看護における安全をまもる看護を理解し対策を考えることができる 1.暮らしを取り巻くリスクと安全対策 2.地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント		
6	E.療養環境調整の必要性を理解し調整することができる 暮らしにおける活動・休息を考えた援助を理解し実践できる　※移動の援助	講義・演習	
7		講義・演習	
8			
9	暮らしを支える日常生活援助方法を理解し工夫し実践できる 1.食生活の特徴・アセスメントの視点がわかり、援助方法を考えることができる ：食事援助、口腔ケア、嚥下困難のある療養者への援助		
10	2.排泄のアセスメントの視点がわかり、援助方法を考えることができる ：ポータブルトイレ、おむつ交換		
11	3.清潔・衣生活の特徴・アセスメントの視点がわかり援助方法を考えることができる ：入浴援助、清拭、部分浴、洗髪、更衣		
12	【演習】洗髪物品を工夫して洗髪をしよう ※援助計画を、立案・実施する。		
13			
14			
15	暮らしにおける苦痛と安楽へのアセスメントの視点がわかり援助方法について 考えることができる 【まとめ】	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】			
受講上の注意 事前学習・学習課題を明確にして講義に臨むこと		評価方法 筆記試験 レポート	90点 10点
使用するテキスト 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論2			医学書院
参考文献			

## シラバス

科目No 地域・在宅看護方法論Ⅱ	配当時期 2年生後期 単位 1単位 時間数 30時間	講義担当者 犬丸 小百合		
		担当者の実務経験		
科目全体のねらい・授業目標				
<p>地域で療養生活を送る人々とその家族の看護について理解することができる</p> <p>1. 著らしの場で行われる治療と看護について理解することができる</p> <p>2. 地域・在宅で生活する医療依存度の高い人とその家族への支援のあり方と、個別性に応じた看護の方法を理解することができる</p>				
DPとの関連				
<p>DP1：人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。</p> <p>DP3：看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践できる。</p> <p>DP4：科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。</p> <p>DP5：生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関する看護を健康の状態やその変化に応じながら実践できる。</p> <p>DP6：多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々への看護が理解できる。</p> <p>DP7：専門職者としての責任を自覚し、常に向上心をもって行動することができる。</p>				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	著らしにおける呼吸・循環に関する看護とその援助について理解し実施することができる。 呼吸・循環：アセスメント、援助方法	講義・演習		
2	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 食事：経鼻経管・経腸、胃瘻栄養法	講義		
3	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 食事：在宅中心静脈栄養法（HPN）	講義		
4	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 排泄：失禁・便秘のケア	講義・演習		
5	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 排泄：尿道留置カテーテル・ストーマ	講義		
6	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 腹膜透析の管理とケア	講義		
7	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 呼吸・循環：在宅酸素療法（HOT）	講義・演習		
8	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 呼吸・循環：非侵襲的陽圧換気（NPPV）、気管切開下陽圧換気 在宅人工呼吸療法（HMV）と排痰法	講義		
9	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 創傷管理：皮膚トラブル予防とケア、褥瘡の予防とケア、スキンケア	講義・演習		
10	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 与薬：服薬管理の実際			
11	在宅療養における医療管理を必要とする療養者の看護について理解できる 与薬：服薬管理の実際	講義		
12	地域・在宅における時期別の看護が理解できる A.健康な時期の看護 B.外来受診期の看護 C.入院時の看護	講義		
13	D.在宅療養準備期（退院前）の看護 E.在宅療養移行期の看護			
14	F.在宅療養安定期の看護 G.急性増悪期の看護 H.終末期の看護（グリーフケア）			
15	I.在宅療養終了期の看護			
【看護師国家試験出題基準との関連】				
受講上の注意 事前学習・学習課題を明確にして講義に臨むこと			評価方法 筆記試験 レポート 90点 10点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院				
参考文献				

## シラバス

科目No	SN-018	配当時期	2年次	講義担当者
科目名	成人看護学方法論 I	単位数	1単位	渡辺洋子
時間数	30時間	外部講師		
科目全体のねらい・授業目標				
1.呼吸機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。 2.循環器機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。 3.栄養代謝機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。				
DPとの関連 DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4:科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につける。 DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。 DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できる。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	呼吸器機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (酸素化障害、換気障害、呼吸運動障害、生命・生活への影響)	講義	渡辺	
2	呼吸機能障害により検査・処置を受ける患者への看護 (動脈血ガス分析、呼吸機能検査、気管支鏡検査、胸腔穿刺、肺生検)	講義	渡辺	
3	呼吸機能障害により治療を受ける患者への看護 (酸素療法、非侵襲的陽圧換気、侵襲的陽圧換気、肺切除術、胸腔ドレナージ、吸入療法による薬物療法、薬物療法)	講義	外部講師 石川 裕美(B5)	
4	呼吸機能障害の病期や機能障害に応じた看護 (肺がん、中皮腫、炎症性疾患、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息)	講義	外部講師 石川 裕美(B5)	
5	呼吸機能障害のある患者の看護 呼吸機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション	渡辺	
6	循環機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (ポンプ機能障害、刺激伝導障害、血管・リンパ管障害、生命・生活への影響)	講義	渡辺	
7	循環機能障害により検査・処置を受ける患者への看護 (心電図、心血管超音波、血管造影、心臓カテーテル検査)	講義	渡辺	
8	循環機能障害により治療を受ける患者への看護 (経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス術、弁置換術・弁形成術、大動脈内バルーンパンピング、ペースメーカー、植え込み型除細動器、血栓溶解療法・血栓除去術)	講義	外部講師 江頭 美香(D6)	
9	循環機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (心不全、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、閉塞性動脈硬化症)	講義	外部講師 江頭 美香(D6)	
10	循環機能障害のある患者の看護 循環機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション	渡辺	
11	栄養代謝機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (肝機能障害、代謝機能障害、生命・生活への影響)	講義	渡辺	
12	栄養代謝機能障害により検査・処置を受ける患者への看護 (腹部超音波、肝生検、腹腔鏡)	講義	渡辺	
13	栄養代謝機能障害により治療を受ける患者への看護 (肝庇護療法、インターフェロン療法、食道静脈瘤内視鏡治療、肝動脈塞栓術、肝切除術)	講義	渡辺	
14	栄養代謝機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (肝炎、肝梗塞、肝癌、高尿酸血症、脂質異常症、肥満)	講義	渡辺	
15	栄養代謝機能障害のある患者の看護 栄養代謝機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション	渡辺	
【看護師国家試験出題基準との関連】 成人看護学 目標VII-10-A～D、目標VII-11-A～D、目標VII-13-A～D				
受講上の注意 「解剖学」「形態機能学」「疾病論」など履修済の科目を振り返り、予習して授業に望むこと。また、グループワークについては、各自授業内容を振り返り学習のまとめを行いワークに臨む。常に「なぜ?」を追求しながら積極的に学びを深める。				
評価方法 筆記試験 100点				
使用するテキスト				
参考文献				

科目No	SN-019	配当時期	2年次	講義担当者
科目名	成人看護学方法論Ⅱ	単位数	1単位	渡辺洋子
		時間数	30時間	外部講師

## 科目全体のねらい・授業目標

- 1.消化・吸収機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。  
2.身体防御機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。

DPとの関連	DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。
	DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。
	DP4:科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につける。
	DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。
	DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できる。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	担当
1	消化・吸収機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (咀嚼・嚥下障害、消化管機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害、生命・生活への影響)	講義	渡辺
2	消化・吸収機能障害により検査・処置を受ける患者への看護 (上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、消化管造影、造影CT・MRI、直腸診)	講義	渡辺
3	消化・吸収機能障害により治療を受ける患者への看護 (咽頭・喉頭摘出術、食道切除術、胃切除術、大腸切除術、脾切除術、腹腔視鏡下手術、人工肛門造設術、手術後ドレナージ、胆道・胆囊ドレナージ、経腸栄養法、経静脈栄養法)	講義	外部講師
4			外部講師 久保 麻美(D7)
5	消化・吸収機能障害により治療を受ける患者への看護 (咽頭・喉頭摘出術、食道切除術、胃切除術、大腸切除術、脾切除術、腹腔視鏡下手術、人工肛門造設術、手術後ドレナージ、胆道・胆囊ドレナージ、経腸栄養法、経静脈栄養法)	講義・演習	渡辺
6	消化・吸収機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (舌癌、咽頭癌、食道癌、胃癌、大腸癌、結腸癌、人工肛門造設後、潰瘍性大腸炎、クローン病、胃・十二腸潰瘍、胆石症、脾炎)	講義	渡辺
7	消化・吸収機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (舌癌、咽頭癌、食道癌、胃癌、大腸癌、結腸癌、人工肛門造設後、潰瘍性大腸炎、クローン病、胃・十二腸潰瘍、胆石症、脾炎)	講義	外部講師
8	消化・吸収機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (舌癌、咽頭癌、食道癌、胃癌、大腸癌、結腸癌、人工肛門造設後、潰瘍性大腸炎、クローン病、胃・十二腸潰瘍、胆石症、脾炎)	講義	外部講師 中野 友梨佳(B6)
9	消化・吸収機能障害のある患者の看護 消化・吸収機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション	渡辺
10	身体防御機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (皮膚粘膜障害、免疫機能障害、骨髄機能障害、生命・生活への影響)	講義・演習	渡辺
11	身体防御機能障害により検査・処置・治療を受ける患者への看護 (スキンテスト、粘膜・皮膚生検、骨髄穿刺、減感作療法、免疫抑制薬、ステロイド療法、造血幹細胞移植、抗ヒト免疫不全ウイルス(HIV)療法)	講義	
12	身体防御機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (アレルギー性疾患、自己免疫疾患、血液悪性疾患、ヒト免疫不全ウイルス感染症)	講義・演習	
13	身体防御機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (アレルギー性疾患、自己免疫疾患、血液悪性疾患、ヒト免疫不全ウイルス感染症)	講義	
14	身体防御機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (アレルギー性疾患、自己免疫疾患、血液悪性疾患、ヒト免疫不全ウイルス感染症)	講義	
15	身体防御機能障害のある患者の看護 身体防御機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション	

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

成人看護学 目標VII-12-A～D、目標VII-16-A～D、

受講上の注意	評価方法
「解剖学」「形態機能学」「疾病論」など履修済の科目を振り返り、予習して授業に望むこと。また、グループワークについては、各自授業内容を振り返り学習のまとめを行いワークに臨む。常に「なぜ?」を追求しながら積極的に学びを深める。	筆記試験 100点

使用するテキスト	系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑪ アレルギー 腸原病 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院
----------	--

## シラバス

科目No	SN-020	配当時期	2年次	講義担当者
科目名	成人看護学方法論III	単位数	1単位	渡辺洋子
時間数 30時間 外部講師				
科目全体のねらい・授業目標				
1.脳・神経機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。 2.感覚機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。 3.運動機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。				
DPとの関連	DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4:科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につける。 DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。 DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できる。			
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	脳・神経機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (生命維持活動調整機能障害、運動・感覚機能障害、言語機能障害、高次脳機能障害、生命・生活への影響)	講義	渡辺	
2	脳・神経機能障害により検査・処置を受ける患者への看護 (脳波検査、髄液検査、脳血管造影)	講義	渡辺	
3	脳・神経機能障害により治療を受ける患者への看護 (開頭術、穿頭術、血管バイパス術、血管内治療、脳室ドレナージ術、脳室・腹腔( VP)シャント術、低体温療法)	講義	外部講師 荒木和秀(D5)	
4	脳・神経機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (脳血管障害、脳腫瘍、脳炎、髄膜炎、頭部外傷、脊髄損傷、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群、筋萎縮性側索硬化症(ALS))	講義	外部講師 荒木和秀(D5)	
5	脳・神経機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (脳血管障害、脳腫瘍、脳炎、髄膜炎、頭部外傷、脊髄損傷、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群、筋萎縮性側索硬化症(ALS))	講義	渡辺	
6	脳・神経機能障害のある患者の看護 脳・神経機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション	渡辺	
7	感覚機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (視覚障害、聴覚障害、嗅覚障害、味覚障害、触覚障害、生命・生活への影響)	講義・演習		
8	感覚機能障害により検査・処置・治療を受ける患者への看護 (眼底検査、聴力検査、経鼻内視鏡検査、味覚検査、眼底光凝固療法、網膜剥離治療、眼内レンズ挿入術、鼓室形成術、小線源治療)	講義		
9	感覚機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (中途視覚障害者、突発性難聴、メニエール病、副鼻腔炎、末梢神経障害)	講義		渡辺
10	感覚機能障害のある患者の看護 感覚機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション		
11	運動機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (姿勢機能障害、移動機能障害、作業機能障害、生命・生活への影響)	講義		
12	運動機能障害により検査・処置を受ける患者への看護 (関節可動域(ROM)検査、徒手筋力テスト(MMT)、脊髄造影、椎間板造影、膝関節鏡、筋生検)	講義・演習	外部講師 須藤 大介(A8)	
13	運動機能障害により治療を受ける患者への看護 (ギブス固定、牽引法、人工関節置換術)	講義	外部講師 須藤 大介(A8)	
14	運動機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (関節リウマチ、椎間板ヘルニア、四肢切断後、骨折)	講義	外部講師 須藤 大介(A8)	
15	運動機能障害のある患者の看護 運動機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・シミュレーション		渡辺
【看護師国家試験出題基準との関連】 成人看護学 目標VII-17-A～D、目標VII-18-A～D、目標VII-19-A～D				
受講上の注意	「解剖学」「形態機能学」「疾病論」など関連する履修済の科目を振り返り、予習して授業に望むこと。また、グループワークについては、各自授業内容を振り返り学習のまとめを行いワークに臨む。常に「なぜ?」を追求しながら積極的に学びを深める。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト	系統看護学講座 成人看護学⑦ 脳・神経系 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑩ 運動器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑪ 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学⑯ 歯科・口腔 医学書院			
参考文献				

## シラバス

科目No 科目名	SN-021 成人看護学方法論IV	配当時期 単位数 時間数	2年次 1単位 30時間	講義担当者 渡辺洋子 外部講師			
科目全体のねらい・授業目標							
1.内部環境調整機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。 2.排尿機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的知識を理解する。 3.性・生殖・乳腺機能障害のある対象の特徴および病期や障害に応じた看護について基本川原由華(B6)							
DPとの関連 DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4:科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につける。 DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。 DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できる。							
授業の流れ							
回	学習内容と成果	方法	担当				
1	内部環境調節機能障害のある患者の看護 (体温調節機能障害、血糖調節機能障害、1型糖尿病、1型糖尿病、糖負荷試験、血糖自己測定、)	講義	外部講師 宮崎 千尋(B6)				
2	内部環境調節機能障害により治療を受ける患者への看護 (インスリン補充療法、糖尿病経口薬による治療、食事・運動療法、	講義	外部講師 宮崎 千尋(B6)				
3	内部環境調節機能障害により治療を受ける患者への看護 (静脈性尿路造影、腎生検、急性期持続血液濾過透析、血液透析、腹膜透析、腎移植)	講義	木村 俊哉(腎センター)				
4	内部環境調節機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病、腎移植術後、体液量調節機能障害、電解質調節機能障害、酸塩基平衡調節機能障害、生命・生活への影響)	講義	木村 俊哉(腎センター)				
5	内部環境調節機能障害のある患者の看護 内部環境調節機能障害のある患者の臨床判断とアセスメントの実際	講義・演習 シミュレーション	渡辺				
6	排尿機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 排尿障害により検査・処置治療を受ける患者への看護 (尿流動態検査、残尿測定、膀胱鏡、膀胱切除術、前立腺切除術、ホルモン補充療法)	講義	渡辺				
7	排尿機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (腎・尿路結石、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大)	講義	外部講師 郷司山 みどり(D7)				
8	内分泌機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (甲状腺機能障害、副腎機能障害、下垂体機能障害、生命・生活への影響)	講義					
9	内分泌機能障害により検査・処置・治療を受ける患者への看護 (ホルモン血中濃度測定、ホルモン負荷試験、甲状腺ホルモン療法、甲状腺切除術)	講義					
10	内分泌機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺癌、下垂体腫瘍)	講義・演習					
11	内分泌機能障害のある患者の病期や機能障害に応じた看護 (甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺癌、下垂体腫瘍)	講義					
12	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の原因と障害の程度のアセスメントと看護 (性・生殖機能障害、ホルモン欠落症) 性・生殖・乳腺機能障害により検査・処置を受ける患者への看護 (腹部超音波、直腸診、勃起機能検査、精液・分泌物の検査)	講義・演習	外部講師 古賀利子(外来)				
13	性・生殖・乳腺機能障害により治療を受ける患者への看護 (勃起障害治療、性交障害治療、男性生殖器手術、ホルモン療法) 性・生殖・乳腺機能障害の患者の病期や機能障害に応じた看護 (男性生殖器の疾患:前立腺炎、前立腺肥大、腫瘍:前立腺癌)	講義	外部講師 郷司山 みどり(D7)				
14	性・生殖・乳腺機能障害の原因と障害の程度と検査・処置を受ける患者の看護 (性・生殖機能障害、ホルモン欠落症) (ヒトパピローマ(HPV)検査、腹部超音波・経腔超音波検査、乳房超音波検査、マンモグラフィー)	講義	外部講師 古賀利子(外来)				
15	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の病期に応じた看護 (性交障害治療、乳癌手術、女性生殖器手術、ホルモン療法) (女性生殖器の疾患:子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣囊腫) (腫瘍:乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌) (生殖機能障害:月経異常、更年期障害)	講義・演習	外部講師 古賀利子(外来)				
【看護師国家試験出題基準との関連】 成人看護学 目標VII-14-A～D、目標VII-15-A～D、目標VII-20-A～D、目標VII-21-A～D							
受講上の注意 「解剖学」「形態機能学」「疾病論」など関連する履修済の科目を振り返り、予習して授業に望むこと。また、グループワークについては、各自授業内容を振り返り学習のまとめを行いワークに臨む。常に「なぜ?」を追求しながら積極的に学びを深める。		評価方法 筆記試験 100点					
使用するテキスト 系統別看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院 系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院							
参考文献							

## シラバス

科目No	SN-022	配当時期	2年次	講義担当者	七種彩子																																																															
科目名	成人看護学方法V	単位数	1単位																																																																	
		時間数	30時間	担当者実務経験																																																																
科目全体のねらい・授業目標																																																																				
1.急性期および周術期にある患者と家族の特徴を理解し、看護を展開するための基本的知識を理解する。 2.慢性疾患がある患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的知識を理解する。 3.リハビリテーションの特徴を理解し看護を展開するための基本的知識を理解する。 川原由華(B6) 4.がん患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的知識を理解する。																																																																				
DPとの関連	DP1:人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP3:看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4:科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につける。 DP5:生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる。 DP6:多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できる。																																																																			
	授業の流れ																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容と成果</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>急性期にある患者と家族の特徴および看護を理解する。 (危機的状態への精神的ケア、治療の緊急性と優先度・治療選択・処置決定支へへの支援、代理意思決定支援)</td> <td>講義</td> <td>外部講師 山崎 ゆかり(D6)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>緊急性の高い患者の看護について理解する。 (意識レベル・神経学的所見、バイタルサイン、心肺停止状態への处置、ショックへの处置、急性症状の応急処置、外傷・熱傷・中暑の応急処置、環境要因による傷害の応急処置、感染症への処置)</td> <td>講義</td> <td>外部講師 山崎 ゆかり(D6)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術前の看護の特徴 (手術療法の理解を促す援助、手術の意思決定支援への援助、術後合併症のリスクアセスメントと援助、術前オリエンテーション、不安のアセスメントと援助、ボディイメージの変容への援助)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術中の看護の特徴 (臍膜・腸管・膀胱・内視鏡下の手術方法による影響と援助、手術体位による影響と援助、麻酔による影響と援助、手術室における安全管理)</td> <td>講義</td> <td>外部講師 寺岡 港香(手術室)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術後の看護の特徴 (手術後襲を受けた患者の生体反応、術後の疼痛管理、創傷管理、ドレーン管理、集中治療室における看護の特徴)</td> <td>講義・演習 シミュレーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>術後合併症の予防と看護について理解する。 術後の看護の特徴① (術後出血、下肢静脈血栓症、肺塞栓症、呼吸器合併症、感染症、糖尿病)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>手術侵襲における生体反応について理解を深める。 術後生体反応と看護① 術後の生体反応について関連図を作成し看護を見いだそう!</td> <td>講義・演習・GW</td> <td>○事前の個人学習 (各自まとめてワークに臨む)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>手術侵襲における生体反応について理解を深める。 術後生体反応と看護② 術後の生体反応について関連図を作成し看護を見いだそう!</td> <td>講義・演習・GW</td> <td>○グループ別に発表し学びの共有を行う。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>術後の機能障害や生活制限への看護について理解する。 術後の看護の特徴② (ボディイメージの変容への支援、退院調整、機能訓練、セルフケア能力の獲得)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>手術をうけた患者の状態についてアセスメントを行い、術後の看護について理解することができる。</td> <td>講義・演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>慢性疾患のある患者と家族の看護を理解する。 慢性疾患のある患者の社会的支援の獲得への看護 (患者と家族の道徳作用と関係性、患者と家族のかかえる問題、退院調整と多職種連携、医療助成制度の活用)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>リハビリテーションをうける患者と家族の看護について理解する。 機能障害に対する受容と適応への看護 (機能障害とアセスメント(生活機能障害者と居住環境)、麻痺疾患群の予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助、補助具・自助具の活用、心理的墓碑への援助)</td> <td>講義・演習</td> <td>外部講師 井上 友柳(ICU)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>リハビリテーションをうける患者の社会資源について理解する。 チームアプローチと社会資源の活用 (多職種連携、身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用、就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因)</td> <td>講義</td> <td>外部講師 井上 友柳(ICU)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族の看護について理解する。 エンド・オブ・ライフケア (症状アセスメントとマネジメント、全人的苦痛のアセスメントとマネジメント、苦痛緩和と意思決定支援、予期的悲嘆に対するアセスメント、アンドバース ケアプランニング、家族ケア)</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>臨死期にある患者と家族の看護について理解する。 臨死期の看護 (身体的ケア、精神的ケア、家族の悲嘆へのケア、グリーフケア、代理意思決定支援、脳死状態への対応)</td> <td>講義・演習</td> <td>DVD鑑賞:人生最後の時を支える看護技術として「死後の処置」を視覚的教材で学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					回	学習内容と成果	方法	備考	1	急性期にある患者と家族の特徴および看護を理解する。 (危機的状態への精神的ケア、治療の緊急性と優先度・治療選択・処置決定支へへの支援、代理意思決定支援)	講義	外部講師 山崎 ゆかり(D6)	2	緊急性の高い患者の看護について理解する。 (意識レベル・神経学的所見、バイタルサイン、心肺停止状態への处置、ショックへの处置、急性症状の応急処置、外傷・熱傷・中暑の応急処置、環境要因による傷害の応急処置、感染症への処置)	講義	外部講師 山崎 ゆかり(D6)	3	周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術前の看護の特徴 (手術療法の理解を促す援助、手術の意思決定支援への援助、術後合併症のリスクアセスメントと援助、術前オリエンテーション、不安のアセスメントと援助、ボディイメージの変容への援助)	講義		4	周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術中の看護の特徴 (臍膜・腸管・膀胱・内視鏡下の手術方法による影響と援助、手術体位による影響と援助、麻酔による影響と援助、手術室における安全管理)	講義	外部講師 寺岡 港香(手術室)	5	周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術後の看護の特徴 (手術後襲を受けた患者の生体反応、術後の疼痛管理、創傷管理、ドレーン管理、集中治療室における看護の特徴)	講義・演習 シミュレーション		6	術後合併症の予防と看護について理解する。 術後の看護の特徴① (術後出血、下肢静脈血栓症、肺塞栓症、呼吸器合併症、感染症、糖尿病)	講義		7	手術侵襲における生体反応について理解を深める。 術後生体反応と看護① 術後の生体反応について関連図を作成し看護を見いだそう!	講義・演習・GW	○事前の個人学習 (各自まとめてワークに臨む)	8	手術侵襲における生体反応について理解を深める。 術後生体反応と看護② 術後の生体反応について関連図を作成し看護を見いだそう!	講義・演習・GW	○グループ別に発表し学びの共有を行う。	9	術後の機能障害や生活制限への看護について理解する。 術後の看護の特徴② (ボディイメージの変容への支援、退院調整、機能訓練、セルフケア能力の獲得)	講義		10	手術をうけた患者の状態についてアセスメントを行い、術後の看護について理解することができる。	講義・演習		11	慢性疾患のある患者と家族の看護を理解する。 慢性疾患のある患者の社会的支援の獲得への看護 (患者と家族の道徳作用と関係性、患者と家族のかかえる問題、退院調整と多職種連携、医療助成制度の活用)	講義		12	リハビリテーションをうける患者と家族の看護について理解する。 機能障害に対する受容と適応への看護 (機能障害とアセスメント(生活機能障害者と居住環境)、麻痺疾患群の予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助、補助具・自助具の活用、心理的墓碑への援助)	講義・演習	外部講師 井上 友柳(ICU)	13	リハビリテーションをうける患者の社会資源について理解する。 チームアプローチと社会資源の活用 (多職種連携、身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用、就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因)	講義	外部講師 井上 友柳(ICU)	14	終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族の看護について理解する。 エンド・オブ・ライフケア (症状アセスメントとマネジメント、全人的苦痛のアセスメントとマネジメント、苦痛緩和と意思決定支援、予期的悲嘆に対するアセスメント、アンドバース ケアプランニング、家族ケア)	講義		15	臨死期にある患者と家族の看護について理解する。 臨死期の看護 (身体的ケア、精神的ケア、家族の悲嘆へのケア、グリーフケア、代理意思決定支援、脳死状態への対応)	講義・演習
回	学習内容と成果	方法	備考																																																																	
1	急性期にある患者と家族の特徴および看護を理解する。 (危機的状態への精神的ケア、治療の緊急性と優先度・治療選択・処置決定支へへの支援、代理意思決定支援)	講義	外部講師 山崎 ゆかり(D6)																																																																	
2	緊急性の高い患者の看護について理解する。 (意識レベル・神経学的所見、バイタルサイン、心肺停止状態への处置、ショックへの处置、急性症状の応急処置、外傷・熱傷・中暑の応急処置、環境要因による傷害の応急処置、感染症への処置)	講義	外部講師 山崎 ゆかり(D6)																																																																	
3	周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術前の看護の特徴 (手術療法の理解を促す援助、手術の意思決定支援への援助、術後合併症のリスクアセスメントと援助、術前オリエンテーション、不安のアセスメントと援助、ボディイメージの変容への援助)	講義																																																																		
4	周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術中の看護の特徴 (臍膜・腸管・膀胱・内視鏡下の手術方法による影響と援助、手術体位による影響と援助、麻酔による影響と援助、手術室における安全管理)	講義	外部講師 寺岡 港香(手術室)																																																																	
5	周術期にある患者と家族の特徴と看護について理解する。 術後の看護の特徴 (手術後襲を受けた患者の生体反応、術後の疼痛管理、創傷管理、ドレーン管理、集中治療室における看護の特徴)	講義・演習 シミュレーション																																																																		
6	術後合併症の予防と看護について理解する。 術後の看護の特徴① (術後出血、下肢静脈血栓症、肺塞栓症、呼吸器合併症、感染症、糖尿病)	講義																																																																		
7	手術侵襲における生体反応について理解を深める。 術後生体反応と看護① 術後の生体反応について関連図を作成し看護を見いだそう!	講義・演習・GW	○事前の個人学習 (各自まとめてワークに臨む)																																																																	
8	手術侵襲における生体反応について理解を深める。 術後生体反応と看護② 術後の生体反応について関連図を作成し看護を見いだそう!	講義・演習・GW	○グループ別に発表し学びの共有を行う。																																																																	
9	術後の機能障害や生活制限への看護について理解する。 術後の看護の特徴② (ボディイメージの変容への支援、退院調整、機能訓練、セルフケア能力の獲得)	講義																																																																		
10	手術をうけた患者の状態についてアセスメントを行い、術後の看護について理解することができる。	講義・演習																																																																		
11	慢性疾患のある患者と家族の看護を理解する。 慢性疾患のある患者の社会的支援の獲得への看護 (患者と家族の道徳作用と関係性、患者と家族のかかえる問題、退院調整と多職種連携、医療助成制度の活用)	講義																																																																		
12	リハビリテーションをうける患者と家族の看護について理解する。 機能障害に対する受容と適応への看護 (機能障害とアセスメント(生活機能障害者と居住環境)、麻痺疾患群の予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助、補助具・自助具の活用、心理的墓碑への援助)	講義・演習	外部講師 井上 友柳(ICU)																																																																	
13	リハビリテーションをうける患者の社会資源について理解する。 チームアプローチと社会資源の活用 (多職種連携、身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用、就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因)	講義	外部講師 井上 友柳(ICU)																																																																	
14	終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族の看護について理解する。 エンド・オブ・ライフケア (症状アセスメントとマネジメント、全人的苦痛のアセスメントとマネジメント、苦痛緩和と意思決定支援、予期的悲嘆に対するアセスメント、アンドバース ケアプランニング、家族ケア)	講義																																																																		
15	臨死期にある患者と家族の看護について理解する。 臨死期の看護 (身体的ケア、精神的ケア、家族の悲嘆へのケア、グリーフケア、代理意思決定支援、脳死状態への対応)	講義・演習	DVD鑑賞:人生最後の時を支える看護技術として「死後の処置」を視覚的教材で学ぶ。																																																																	
【看護師国家試験出題基準との関連】																																																																				
必修問題 目標III-10-B 成人看護学 目標II-3-A～C、目標II-4-A～B、目標II-5-A～E、目標VI-9-A～C																																																																				
受講上の注意																																																																				
「解剖学」「形態機能学」「疾病論」など関連する履修済の科目を振り返り、予習して授業に望むこと。また、グループワークについては、各自授業内容を振り返り学習のまとめを行いワークに臨む。常に「なぜ?」を追求しながら積極的に学びを深める。			評価方法 筆記試験 100点																																																																	
使用するテキスト																																																																				
医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学技術I 医学書院 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学技術II 医学書院 系統看護学講座 専門分野I 臨床看護総論																																																																				
参考文献																																																																				

## シラバス

科目No 老年看護学方法論Ⅰ	配当時期 2年前期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 椎葉 幸 担当者の実務経験	
科目全体のねらい・授業目標 基礎看護学技術で学んだ活用し、高齢者の特徴をふまえた援助を理解することができる。			
DPとの関連			
DP2 対象を中心として看護を提供するために、より良い人間関係を形成することができる。 DP3 看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立って倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断をすることができる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点が理解できる	講義・演習	
2			
3	高齢者のコミュニケーション技術が実践できる	LTD学習法とシミュレーション	
4			
5	食生活を支える援助技術が習得できる	LTD学習法と演習	
6			
7	排泄行動を支える援助技術が習得できる	LTD学習法と演習	
8			
9	皮膚・粘膜の機能を高める援助技術が習得できる	LTD学習法とシミュレーション	
10			
11	活動・休息への援助技術が習得できる	LTD学習法と演習	
12			
13	高齢者の社会参加に対する考え方を述べることができる	講義とGW	
14			
15	まとめ	講義	
【看護師国家試験出題基準との関連】 老年看護学 目標Ⅱ-5-A～I			
受講上の注意 LTD学習法を行い、協同学習の精神で仲間とともに老年看護学の知識を生かして演習に取り組む 基礎看護技術で学んだ知識を総動員して高齢者の看護に生かすこと		評価方法 終講試験 課題レポート	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院			
参考文献 適宜提示する			

## シラバス

科目No	SN-025 老年看護学方法論Ⅱ	配当時期 2年後期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 椎葉 幸 担当者の実務経験		
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
既習の知識を活用し、高齢者の健康障害の特徴と健康障害に応じた看護について理解することができる。					
<b>DPとの関連</b>					
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。 DP3 看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立って倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断をすることができる。					
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	高齢者の健康障害の特徴が理解できる	講義・GW			
2					
3	身体疾患のある高齢者の看護が理解できる	講義・GW			
4					
5	治療を受ける高齢者への看護が理解できる ・薬物療法 ・手術療法 ・リハビリテーション	LTD学習法 シミュレーション			
6					
7					
8	認知機能が低下した高齢者の看護が理解できる ユーマニチュード パーソンセンタードケア	LTD学習法 演習			
9					
10	終末期にある高齢者の看護を理解できる 人生の最終段階にある人のケア ガイドライン ACP	LTD学習法 DVD視聴			
11					
12	治療・介護を必要とする高齢者の家族への看護が理解できる	講義・演習			
13					
14	高齢者のリスクマネジメントが理解できる	講義・GW			
15	まとめ	講義			
<b>【看護師国家試験出題基準との関連】</b> 老年看護学目標Ⅱ-6-A～H、目標Ⅱ-7-A～R、目標Ⅱ-8-A～B、目標Ⅱ-9-A～I					
<b>受講上の注意</b> 協同学習の手法を用いて、主体的に学習する。		評価方法 終講試験 課題レポート			
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院					
<b>参考文献</b> 適宜提示する					

## シラバス

科目No	SN-027 小児看護学概論	配当時期 単位数 時間数	2年次 1単位 30時間	講義担当者 木戸信子 担当者の実務経験 34年
------	-------------------	--------------------	--------------------	----------------------------------

## 科目全体のねらい・授業目標

小児看護の対象の特徴と社会的環境について学び、小児の健康問題と小児看護の役割・課題について総合的理解に繋げる。

1. 小児各期の成長・発達の特徴について、身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。
2. 小児を取り巻く社会の現状と課題について理解できる。
3. 家族の機能と特徴、家族の理解に必要なアセスメントについて理解できる。
4. 子どもの人権と小児看護における倫理的配慮について考えを述べることができる。

## DPとの関連

DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している

DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる

DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防および健康に関わる看護の実践ができる

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	小児看護の特徴と役割について理解する	講義	
2	小児と家族に関する保健統計について理解する	講義	
3	小児医療・看護の変遷について理解する	講義	
4	子どもの権利について理解し考察する	講義・GW	
5	子どもと家族を取り巻く法律と社会的支援について理解する	講義	
6	小児期における成長・発達とは何か、成長・発達の特徴について理解する	講義	
7	新生児・乳児の子どもと家族について理解する	GW	
8	幼児前期の子どもと家族について理解する	GW	
9	幼児後期の子どもと家族について理解する	GW	
10	学童期の子どもと家族について理解する	GW	
11	思春期・青年期の子どもと家族について理解する	GW	
12	小児各期の成長・発達についてのまとめ	講義	
13	家族の特徴とアセスメントについて理解する	講義	
14	現代の子どもと家族を取り巻く社会の状況を理解する。	講義・演習	
15	子どもにとっての遊びの意義について理解する	講義・演習	

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

小児看護学 目標 I-1-A～C、目標 I-2-A～C、目標 I-3-A～I

受講上の注意	評価方法 筆記試験 レポート 授業態度	80% 15% 5%
--------	------------------------------	------------------

## 使用するテキスト

系統看護学講座 専門分野II 小児看護学 I 小児看護学概論・小児臨床総論

## 参考文献

## シラバス

科目No	SN-028 小児看護学方法論 I	配当時期 単位数 時間数	2年次 1単位 30時間	講義担当者 濱本邦洋 担当者の実務経験
------	----------------------	--------------------	--------------------	---------------------------

## 科目全体のねらい・授業目標

小児にみられる主要な疾患・健康障害について学び、小児看護において科学的根拠に基づく援助を実践するための基礎的知識を習得する。

1. 小児期にみられる主要な疾患について病態生理・診断・治療が理解できる。
2. 子どもの事故・外傷について理解できる。

## DPとの関連

- DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している  
 DP4 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけている  
 DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	小児の発育と発達、原始反射、姿勢反射について理解し、発育発達の評価ができる。	講義	
2	染色体異常(ダウン症候群、18トリソミー)の病態、診断を理解する	講義	
3	新生児疾患(分娩損傷、新生児メレナ)の病態・診断・治療を理解する	講義	
4	内分泌・代謝疾患(先天性代謝異常、1型糖尿病)の病態・診断・治療を理解する	講義	
5	アレルギー疾患(食物アレルギー、気管支喘息)の病態・診断・治療を理解する	講義	
6	呼吸器疾患(気管支炎、肺炎)の病態・診断・治療を理解する	講義	
7	循環器疾患(先天性心疾患、川崎病)の病態・診断・治療を理解する	講義	
8	消化器疾患(口唇口蓋裂、先天性胆道閉鎖症、腸重積)の病態・診断・治療を理解する	講義	
9	血液疾患(再生不良性貧血、血友病、紫斑病)の病態・診断・治療を理解する	講義	
10	小児がん(白血病、脳腫瘍、神経芽腫)の病態・診断・治療を理解する	講義	
11	腎・泌尿器疾患(ネフローゼ症候群)の病態・診断・治療を理解する	講義	
12	神経・筋疾患(てんかん、脳性麻痺、水頭症)の病態・診断・治療について理解する	講義	
13	運動器・感覚器疾患(先天性股関節脱臼、中耳炎、弱視)の病態・診断・治療を理解する	講義	
14	感染症(麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、髄膜炎)の病態・診断・治療を理解する	講義	
15	事故・外傷(誤飲、熱傷、溺水、熱中症)の要因と診断・治療・対処について理解する	講義	

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

必修問題 目標III-11-B-e

受講上の注意 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 小児看護学1 小児看護概論・小児臨床看護総論	評価方法 筆記試験
---	--------------

## 使用するテキスト

## 参考文献

## シラバス

科目No 小児看護学方法論II		配当時期 単位数	2年次 1単位	講義担当者 木戸 信子 高木病院 看護師	
		時間数	30時間	担当者の実務経験 34年	
科目全体のねらい・授業目標					
小児における様々な健康レベル、生活背景や症状に応じた援助と小児看護に必要な基礎的看護技術を学び、健康障害が子どもと家族に与える影響と看護の役割について理解する。					
1. 健康障害が子どもと家族にとってどのような意味を持つか理解できる 2. 健康障害の経過に応じた子どもと家族への看護を理解する 3. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する 4. 小児に多くみられる症状と看護について理解する 5. 小児看護に必要な基礎的看護技術について理解し、実施できる					
DPとの関連					
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる DP4 科学的な根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を身につけている DP5 生活者として健康の保持・増進・疾病の予防及び健康に関わる看護の実践ができる					
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	健康障害が子どもと家族に与える影響について理解する	講義			
2	病気に対する子どもの理解と意思決定、プレパレーションについて理解する	講義・GW			
3	外来通院・入院中の子どもと家族の看護を理解する	講義			
4	障害を持つ子どもと家族の看護を理解する	講義			
5	子どもの虐待と看護について理解する	講義			
6	在宅療養中・災害時の子どもと家族への看護について理解する	講義			
7	急性期・周術期の子どもと家族の看護を理解する	講義			
8	慢性期の子どもと家族の看護を理解する	講義			
9	終末期にある子どもと家族の看護を理解する	講義			
10	小児のアセスメント①コミュニケーション・身体計測について理解する	講義・演習	外部講師 坂井 伽帆(外来)		
11	小児のアセスメント②バイタルサイン測定・身体的アセスメントについて理解する	講義・演習	外部講師 坂井 伽帆(外来)		
12	検査・処置を受ける子どもへの援助を理解する	講義	外部講師 坂井 伽帆(外来)		
13	症状を示す子どもの看護と臨床判断(発熱・脱水・下痢・嘔吐・便秘)	講義・演習			
14	症状を示す子どもの看護と臨床判断(呼吸困難・チアノーゼ・ショック・けいれん)	講義・演習			
15	症状を示す子どもの看護と臨床判断(発疹・痛み・不機嫌・啼泣)	講義・演習			
【看護師国家試験出題基準との関連】					
小児看護学 目標II-4-A~H、目標II-5-A、目標III-6-A~B、目標IV-7-A~D 目標IV-8-A~D、目標IV-9-A~B					
受講上の注意		評価方法			
		筆記試験	80%		
		レポート	15%		
		授業態度	5%		
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野II 小児看護学2 小児臨床看護各論 小児看護学1 小児看護概論・小児臨床看護総論 写真でわかる小児看護技術アドバンス 新訂第2版 インターメディカ					
参考文献					

科目No	SN-031 母性看護学概論	配当時期 2年次 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 實松順子 担当者の実務経験 23年		
科目全体のねらい・授業目標					
ねらい	母性機能を中心に外観し、身体的・精神的、社会的、文化的背景を理解し、生活および健康問題に関して援助の在り方を学習する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護学の概念、役割が理解できる。</li> <li>2. リプロダクティブ・ヘルス/ライフの概念が理解できる。</li> <li>3. 母子保健の変遷と動向が理解できる。</li> <li>4. 母子保健行政の施策が理解できる。</li> <li>5. 母性・父性および家族の概念とその発達過程が理解できる。</li> <li>6. ライフサイクル各期の特徴と健康障害について理解できる。</li> <li>7. 女性の健康を保持増進するための援助の実際を考えることができる。</li> </ol>				
DPとの関連					
DP1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。				
DP2	人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。				
DP3	看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。				
DP4	科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。				
DP6	多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。				
授業の流れ					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	母性とは何か、母性看護のあり方について理解できる。	講義			
2	母子保健の社会の変遷と現状および母性看護の対象を取り巻く環境について理解できる。	講義			
3	母子保健に関する制度および母子保健統計からみた動向について理解できる。	講義			
4	母性および父性の発達について理解できる。	講義			
5	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化について理解できる。	講義			
6	人間の形態機能の変化について理解できる。(性分化疾患)	講義			
7	セクシャリティ(人間の性)の考え方について理解できる。	講義			
8	リプロダクティブヘルス/ライフの概念と課題およびリプロダクティブヘルスケアについて理解できる。	講義・GW			
9	女性のライフステージと健康との関連について理解できる。	講義			
10	女性のライフステージにおける健康問題と看護について理解できる。 (概念、思春期、成熟期)	講義			
11	女性のライフステージにおける健康問題と看護について理解できる。 (更年期、老年期)	講義			
12	女性のライフステージにおける健康問題と看護について理解できる。 (思春期、成熟期、更年期、老年期)	講義・GW			
13	女性のライフステージにおける健康問題と看護について理解できる。 (思春期、成熟期、更年期、老年期)	GWの発表			
14					
15					
【看護師国家試験出題基準との関連】					
母性看護学 目標 I-1-A～E、目標 II-2-A～B					
受講上の注意		評価方法 レポート GWへの参加度 筆記試験			
自身の生活や身体と関連づけながら問題意識をもち講義に臨むこと。					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野II 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院					
系統看護学講座 専門分野II 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院					
参考文献					

## シラバス

科目No SN-032 母性看護学方法論 I	配当時期:2年次 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 實松順子 担当者の実務経験 23年
---------------------------	---------------------------------	-------------------------------

## 科目全体のねらい・授業目標

1. 正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過が理解できる。
2. 正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護が理解できる。
3. 母子とその家族の健康課題のための支援について理解できる。
4. 産褥期の問題とその看護の必要性について理解できる。
5. 新しい生命を迎えた家族の心理的・社会的变化について理解できる。

## DPとの関連

- DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。  
 DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。  
 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。  
 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。  
 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	妊娠の成立が理解できる。	講義	
2		講義	
3	妊娠による身体的变化と胎児の成長・発達について理解できる。	講義	
4	妊娠による精神的・社会的变化の特徴について理解できる。	講義	
5	妊娠期に起こりうる異常とその看護について理解できる。	講義	
6	分娩のメカニズムについて理解できる。	講義	
7		講義	
8	分娩第1期から第4期までの経過および起こりうる異常について学び、その看護について理解できる。	講義	
9		講義	
10	産褥期の進行性変化・退行性変化のアセスメントとその看護について理解できる。	講義	
11	ハイリスク妊娠と帝王切開分娩の術前後の看護について理解できる。	講義	
12	産褥期の異常と治療・看護について理解できる。	講義	
13	産科救急の実際について理解できる。	講義	
14	褥婦と家族のアセスメントと看護の実際が理解できる。	講義	
15	産褥期に抱える精神的諸問題とそのサポートについて理解できる。	講義	

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

必修問題 目標III-10-A-o  
 母性看護学 目標II-3-A～B、目標II-4-A～D、目標II-5-A～D、目標II-6-A～D、目標IV-8-A～B

受講上の注意 3年次の臨地実習と密接に関連するにて積極的に講義に参加すること。	評価方法 筆記試験 演習への取り組み レビューノートの作成
--	--

## 使用するテキスト

系統看護学講座 専門分野II 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院

## 参考文献

パーカーク臨床実習ガイド 母性看護学実習ガイド 照林社

## シラバス

科目No	SN-033 母性看護学方法論Ⅱ	配当時期 2年次	講義担当者 實松順子
		単位数 1単位	
		時間数 15時間	担当者の実務経験 23年

## 科目全体のねらい・授業目標

1. 正常な新生児期の経過が理解できる。
2. 正常な新生児期の看護が理解できる。
3. 母子とその家族の健康課題のための地域連携と育児支援について理解できる。
4. ハイリスク妊娠とその看護について理解できる。
5. ハイリスク新生児とその看護について理解できる。
6. 出生前診断、遺伝子相談の現状と倫理的課題について考えることができる。
7. 不妊の現状学び、不妊症に悩む対象の心理的サポートについて考えることができる。
8. 産褥期に抱える精神的諸問題を理解し、精神的サポートについて考えることができる。

## DPとの関連

- DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。  
 DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。  
 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。  
 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。  
 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	胎児から新生児への変化を理解し、観察の視点を理解できる。	講義	
2	胎児から新生児への変化からアセスメントの視点および看護を理解できる。	講義	
3	新生児の経過について基本的な観察と看護が理解できる。	講義	
4	ハイリスク新生児の看護について理解できる。	講義	
5	退院後の地域連携による育児支援について理解できる。	講義	
6	演習 洗浴:ドライテクニック・泡沐浴、 新生児のバイタルサイン測定、身体測定 子宮底・腹囲測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取	演習	
7			
8	不妊の治療とその看護について理解できる。 遺伝子相談および出生前診断について理解できる。	講義	

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

母性看護学 目標I-1-D、目標III-7-A～D、目標IV-8-B～C

受講上の注意	評価方法
演習内容は実習で必要な技術であるため、練習を重ねチェックを受けた上で実施につなげること。	筆記試験 演習への取り組み レビューノートの作成

## 使用するテキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院

## 参考文献

パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護学実習ガイド 照林社

## シラバス

科目No	SN-035 精神看護学概論	配当時期 2年次 単位数 1単位	講義担当者 田中雅美 担当者の実務経験
時間数	30時間		

## 科目全体のねらい・授業目標

- 精神的諸問題をもつ対象の存在や生命を尊重し、倫理的配慮ができる基礎的能力を養うことができる。
- 精神医療・看護の歴史と変遷と動向から、精神保健および精神看護の役割と重要性を考えることができる。
- こころの働きおよび精神機能について理解し、精神の状態を的確の捉えることができる基礎的能力を養うことができる。
- こころの健康と精神保健について理解できる。
- 精神保健医療福祉に関する法律と政策を学び、精神的諸問題をもつ対象者の現状および課題について理解できる。

## DPとの関連

- DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。  
 DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。  
 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。  
 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。  
 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	精神看護の基本的な考え方について理解できる。	講義	事前学習課題
2	精神看護の特徴と「こころの仕組み」について理解できる。	講義	
3	自我と防衛機制について理解できる。	講義	
4	発達理論と人間のこころの発達について理解できる。	講義	
5	危機とこころの反応について理解できる。	講義・LTD	事前学習課題
6	ストレス反応とコーピングについて理解できる。	講義・LTD	事前学習課題
7	精神医療の歴史と現在について理解できる。	講義	
8	こころの健康と精神保健、リエゾン看護について理解できる。	講義	
9	生活の場と精神保健について理解できる。 (学校・家庭・職場・地域社会)	GW	
10	生活の場と精神保健について理解できる。	GWの発表	
11	ライフサイクルと精神保健について理解できる①	GW	
12	ライフサイクルと精神保健について理解できる②	GWの発表	
13	精神保健と法律について理解できる。	講義	
14	精神保健と災害について理解できる。	講義	
15	看護師のメンタルヘルスについて理解できる。	講義・GW	

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

精神看護学 目標 I-1-A～F、目標 V-6-B～C

## 受講上の注意

- 協同学習を用いるため、自己学習し積極的に参加すること。
- 課題提出も評価の対象とする。

## 評価方法

課題提出状況	10点
GW参加状況	10点
筆記試験	80点

## 使用するテキスト

系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院  
 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院

## 参考文献

適宜提示する

## シラバス

科目No SN-037 精神看護学方法論 I	配当時期 2年次 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 非常勤講師(医師・看護師) 担当者の実務経験
---------------------------	---------------------------------	------------------------------------

## 科目全体のねらい・授業目標

- 精神的諸問題をもつ対象の症状および精神の状態、問題の特徴、治療法を理解することができる。
- 精神的諸問題を持ちながらも、地域で生活することを支える施策および各種目的を理解し、看護の役割について考えることができる。

## DPとの関連

- DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。  
 DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。  
 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。  
 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。  
 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	精神疾患の捉え方と分類について理解できる。	講義	甲斐病院
2	主要な精神症状の理解ができる。	講義	
3	精神機能と障害について理解できる。	講義	
4	精神科における基本的な薬物治療について理解できる。	講義	
5	主要な精神疾患とその看護について理解できる①(器質的精神病)	講義	
6	主要な精神疾患とその看護について理解できる②(依存症・神経症・てんかん)	講義	
7	主要な精神疾患とその看護について理解できる③(統合失調症・躁うつ)	講義	
8	主要な精神疾患とその看護について理解できる④(パーソナリティ障害など)	講義	▼
9	児童・思春期の精神障害について理解できる。	講義	のぞえ総合心療病院
10	精神療法および修正型電気ショック療法について理解できる。	講義	
11	精神科におけるリハビリテーションと余暇活動、その目的について理解できる。	講義・GW	甲斐病院
12	SSTについて理解できる	講義・演習	
13			
14	精神科におけるデイケア・ナイトケア・グループホーム・訪問看護の目的と実際について理解できる。	講義・GW	筑水会病院
15	精神障害者のピアサポート・セルフヘルプグループ・就労支援について理解できる。	講義・GW	

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

必修問題 目標III-11-A-x・y、目標III-11-B-d  
 疾病の成り立ちと回復の促進 目標III-4-C、目標IV-15-A  
 精神看護学 目標II-2-A～L、目標IV-4-B～G、目標V-7-A

受講上の注意	評価方法 筆記試験 100点
--------	-------------------

## 使用するテキスト

系統別看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院  
 系統別看護学講座 専門分野II 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院

## 参考文献

## シラバス

科目No	SN-036 精神看護学方法論 II	配当時期 2年次 単位数 1単位	講義担当者 田中雅美 外部講師
		時間数 30時間	担当者の実務経験

## 科目全体のねらい・授業目標

- 精神的諸問題をもつ対象のこころの動きを理解することができる。
- 精神看護の基礎となる主要概念について理解することができる。
- 精神的諸問題および症状が生活に及ぼす影響や生きにくさを理解し、看護の役割を考えることができる。
- 精神的諸問題をもつ対象との治療的関係成立のためのコミュニケーションおよび関わり方について理解できる。

## DPとの関連

- DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。  
 DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。  
 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。  
 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。  
 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	精神的諸問題を抱えている人のこころを理解できる。	講義・LTD	
2	精神的諸問題を抱えている人の生活を理解できる。	講義・GW	
3	リカバリーとストレングスについて理解できる。	講義	
4	精神看護におけるコミュニケーションについて理解できる。	講義・GW	
5	治療的コミュニケーションについて理解できる。	講義・GW	
6	精神看護の基盤となる概念・モデルについて理解できる① (ペプロウ・トラベルビー)	講義	
7	精神看護の基盤となる概念・モデルについて理解できる② (セルフケア理論・オレムーアンダーウッド理論)	講義	
8	入院治療の意味について理解できる①	講義	外部講師
9	入院治療の意味について理解できる②	講義	外部講師
10	精神科における身体ケアについて理解できる①	講義	外部講師
11	精神科における身体ケアについて理解できる②	講義	外部講師
12	精神科における安全をまもる意義について理解できる	講義	外部講師
13	精神的諸問題が日常生活に及ぼす影響について理解できる。	講義・GW	
14	精神的諸問題をもつ対象への看護	シミュレーション	
15			

## 【看護師国家試験出題基準との関連】

精神看護学 目標II-2-A～D、目標III-3-A～C、目標IV-4-A

## 受講上の注意

精神看護学概論および精神看護学方法論Iで学んだ内容を復習し講義に臨むこと。  
 また、グループワークは自己学習をしっかりと行い積極的に参加すること。

評価方法  
筆記試験 100点

## 使用するテキスト

系統別看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院  
 系統別看護学講座 専門分野II 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院

## 参考文献

シラバス

科目No	SN-039 看護の統合と実践 I	配当時期 2年次	講義担当者 七種彩子
		単位数 1単位 時間数 30時間	担当者の実務経験

科目全体のねらい・授業目標

- 既習の知識・技術を統合し、臨床判断のもと対象の状態に応じた看護を実践する能力を養う。
- 目標
1. 臨床判断のもと対象の状態を既習の知識と統合して分析することができる。
  2. 臨床判断における自己の判断の妥当性を検討できる。
  3. 対象の状態に応じた個別性ある看護計画を立案できる。
  4. 実践した援助を評価できる。
  5. 看護実践能力における自己の課題を明確にできる。

DPとの関連

- DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。  
 DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。  
 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。  
 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。  
 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護の統合と実践とは何か、講義の進め方について	講義	
2	これまでの学びを振り返り、自己の課題について明確にできる。	講義	
3	模擬患者の全身状態の観察ができる(1)	シミュレーション	
4	事例を用いた看護計画の立案ができる	講義・演習	ジグソー学習
5			
6	看護計画の発表と検討ができる	GW	
7	模擬患者の全身状態の観察ができる(2)	シミュレーション	
8	模擬患者に対する援助の実践ができる	シミュレーション	
9			
10	計画に基づく看護の実践 1.看護計画の実践ができる。 2.自己の臨床判断を述べることができる。 3.臨床判断の妥当性を検討することができる。 4.臨床判断に基づいた援助計画の修正・検討ができる。	演習 GW	
11			
12			
13			
14	技術試験(OSCE) オリエンテーション		
15	技術試験後の振り返りと自己の課題の明確化	講義・GW	

受講上の注意

ジグソー学習を取り入れた講義・演習であるため責任感を持ち、積極的に学習すること。また、事前学習を取り入れながら主体的に学ぶこと。

評価方法

課題レポート  
技術試験

使用するテキスト

適宜提示する。

参考文献

## シラバス

科目No	SN-040 看護の統合と実践Ⅱ (医療安全・災害看護・国際看護)	配当時期 単位数 時間数	2年次 1単位 30時間	講義担当者 高木病院 看護師 等 担当者の実務経験
科目全体のねらい・授業目標				
目標				1. 看護を実践するうえ必要な医療安全における基礎的知識を習得する。 2. 医療安全についての基礎的能力を養う。 3. 災害に関する基礎的知識を学び、看護の役割について理解する。 4. 災害看護における基礎的能力を養う。 5. 世界の健康問題や医療の現状を理解する。 6. 国際協力の現状と今後の展望などを理解する。 7. 国際看護活動に関心をもち、国際的活動における看護師の役割について理解する。
DPとの関連				
DP1 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解している。 DP2 人間尊重を基盤として誠実な態度で人間関係を形成することができる。 DP3 看護職としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践することができる。 DP4 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力が身についている。 DP6 多職種と連携しながら、多様な場で生活する人々の看護が理解できている。				
授業の流れ				
回	学習内容と成果	方法	備考	
1	医療安全と看護の責務について理解できる。	講義	外部講師	
2	医療安全の動向、医療事故、インシデント、アクシデントについて理解できる。	講義	岩光和子	
3	事故発生のメカニズムについて理解できる。	講義	田嶋 梢	
4	エラーを引き起こす人間特性および行動特性について理解できる。	講義		
5	エラーの分析方法について理解できる。	講義		
6	KTYについて理解できる。 感染性率の3要素について理解できる。	講義・演習		
7	災害に関する基礎的な知識について理解することができる。	講義	外部講師 吉野 優佳(外来)	
8	災害看護の特性について理解できる。	講義		
9	災害発生時の対応について理解できる。	講義		
10	災害における被災者の心のケアについて理解できる。	講義		
11	災害時の看護の実際(大川市防災訓練参加)	校外学習		
12	「国際看護」について理解できる。	講義	外部講師	
13	DVD「アメリカンヒストリーX」鑑賞	ディスカッション	武田七重	
14	世界の保健統計	講義・GW		
15	国際看護に求められる能力	講義・GW		
【看護師国家試験出題基準との関連】 看護の統合と実践 目標II-2-A～C、目標III-3-A～D、目標IV-4-I～J				
受講上の注意				評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統別看護講座 統合 災害看護学・国際看護学 医学書院 医療安全 メディカ出版				
参考文献				

分野	専門分野	科目番号	単位数	2単位		
科目名	基礎看護学実習Ⅲ	授業形態	臨地実習	時間数 90時間		
		開講時期	2年次前期	曜日・時限 月～金		
担当教員	安徳秀子、七種彩子、渡辺洋子 田中雅美 他 *科目責任:田中雅美	実務経験	田中:26年1月 安徳:28年9月			
授業の目的 授業の目標	<p>目的 対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を過程的に展開できる基礎的能力を修得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>観察や気づきを既習の知識と関連させ、対象者に起こっている事象を理解することができる。</li> <li>対象者・家族・医療従事者や諸記録から情報収集を行うことができる。</li> <li>対象者を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。</li> <li>対象者のニーズや健康課題に関連する要因を捉え、看護上の問題を導き出すことができる。</li> <li>対象者に応じた看護目標と看護計画を立案することができる。</li> <li>原理原則に基づき看護計画を実践し、対象者の反応を確かめながら評価・修正ができる。</li> <li>日々の観察や気づきから、看護の方向性や介入方法を検討することができる。</li> </ol>					
授業の内容と方法	<p>授業内容</p> <p>一人の患者を受持ち、看護過程を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>病棟オリエンテーションを受け、病棟の特徴・病棟の構造などを理解する。</li> <li>カルテやコミュニケーションにより情報を収集する。</li> <li>理論的枠組みに沿って情報を整理しアセスメントする。</li> <li>情報を分析し、看護上の問題を明確にする。</li> <li>優先すべき看護上の問題から看護計画を立案する。</li> <li>立案した看護計画を検討することで、対象者に応じた看護計画に修正する。</li> <li>立案した看護計画を基に援助を実施し、評価・修正する。</li> <li>日々の看護実践から、看護目標の到達を評価し、カンファレンスで発表・検討する。</li> <li>実施・評価で看護実践を振り返り、看護サマリーをまとめる。</li> <li>最終カンファレンスで、実習全体を振り返り今後の学習に活かす。</li> <li>実習終了後、グループで目的目標に沿って実習を振り返り、クラス全体で、実習報告会を行う。</li> </ol>	学習課題 事前課題及び 実習中の指定 課題	担当 実習配置 表により 担当教員 が指導に入 る			
評価方法	実習目標到達及び実習態度等を評価表に沿って総合的に評価する					
参考図書・参考文献など	<ul style="list-style-type: none"> <li>古橋 洋子監修：患者さんの情報収集ガイドブック メディカルフレンド社</li> <li>関連図の書き方マスターしよう 医学芸術社</li> <li>新道 幸恵ほか：看護診断ハンドブック 第10版 医学書院</li> <li>受持ち患者の疾患等に応じて、その都度検索すること</li> <li>江川 隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく 看護過程と看護診断 第3版 ヌーベルヒロカワ</li> </ul>					
備考	・初めて3週間患者を受け持つての看護実践となるため、これまでの既習課目の復習をした上で臨むこと					

分野	専門分野	科目番号		単位数	1単位																				
科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	授業形態	臨地実習	時間数	45時間																				
担当教員		開講時期	2年次	曜日・時限	月～金																				
授業の目的	犬丸 小百合		実務経験																						
授業の目標	1. 事業所健診の対象者や予防医学センターを利用されている対象の特徴を理解し、人々の健康の保持・増進の実際を学ぶ。 2. 地域で療養しながら生活する人々の暮らしの実態と地域が担う役割について理解する。																								
授業の内容と方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">回</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">授業内容</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">授業方法</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">学習課題</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">実習前OR</td> <td> <b>【実習オリエンテーション】</b>            1) 地域・在宅看護論Ⅱの臨地実習について            2) 地域・在宅看護論実習Ⅱの位置づけ、目的・目標、方法            3) 実習についての学生心得            4) 実習記録について            5) カンファレンスについて            6) 週間予定表について            7) 通学方法・服装について            8) 必要物品・注意事項について         </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">※聴診器は各自持参する。</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"></td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">犬丸</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">臨地実習</td> <td> <b>【実習の実際】</b>            ●産業健診・予防医学センター(1日間)            1) 大川市の特徴を踏まえた健康問題・障がい、施設概要、法的規制や施策と関連させることができる            2) 保健活動の機能を理解し、センターにおける保健活動の内容を述べることができる            ●通所介護サービス(3日間)            1) 介護保険制度における通所サービスの施設の概要・特徴・利用状況・サービス内容が理解できる            2) 通所介護サービスと通所リハビリテーションの施設の違い特徴がわかる            3) 利用者の通所介護の目的と活動内容について理解できる            4) 通所介護サービス利用者と積極的にコミュニケーションができる            5) 通所介護サービスにおけるレクリエーションについて考えることができる            6) サービス利用者の介護度に応じた自立支援への援助方法について考えスタッフと一緒に援助することができる            7) 実習反省会(最終日)         </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">・高木病院:産業健診センターおよび予防医学センター ・デイサービスまたはデイケア</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">事前学習をして実習に臨む</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">教員が実習配置により指導に入る</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">終了実習後</td> <td>実習のまとめ 1) 実習記録のまとめ・グループ討議 2) 実習の学びをグループで発表会・全体共有</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">学内</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">実習目標に沿って学びをまとめ共有</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">全教員</td> </tr> </tbody> </table>					回	授業内容	授業方法	学習課題	担当	実習前OR	<b>【実習オリエンテーション】</b> 1) 地域・在宅看護論Ⅱの臨地実習について 2) 地域・在宅看護論実習Ⅱの位置づけ、目的・目標、方法 3) 実習についての学生心得 4) 実習記録について 5) カンファレンスについて 6) 週間予定表について 7) 通学方法・服装について 8) 必要物品・注意事項について	※聴診器は各自持参する。		犬丸	臨地実習	<b>【実習の実際】</b> ●産業健診・予防医学センター(1日間) 1) 大川市の特徴を踏まえた健康問題・障がい、施設概要、法的規制や施策と関連させることができる 2) 保健活動の機能を理解し、センターにおける保健活動の内容を述べることができる ●通所介護サービス(3日間) 1) 介護保険制度における通所サービスの施設の概要・特徴・利用状況・サービス内容が理解できる 2) 通所介護サービスと通所リハビリテーションの施設の違い特徴がわかる 3) 利用者の通所介護の目的と活動内容について理解できる 4) 通所介護サービス利用者と積極的にコミュニケーションができる 5) 通所介護サービスにおけるレクリエーションについて考えることができる 6) サービス利用者の介護度に応じた自立支援への援助方法について考えスタッフと一緒に援助することができる 7) 実習反省会(最終日)	・高木病院:産業健診センターおよび予防医学センター ・デイサービスまたはデイケア	事前学習をして実習に臨む	教員が実習配置により指導に入る	終了実習後	実習のまとめ 1) 実習記録のまとめ・グループ討議 2) 実習の学びをグループで発表会・全体共有	学内	実習目標に沿って学びをまとめ共有	全教員
回	授業内容	授業方法	学習課題	担当																					
実習前OR	<b>【実習オリエンテーション】</b> 1) 地域・在宅看護論Ⅱの臨地実習について 2) 地域・在宅看護論実習Ⅱの位置づけ、目的・目標、方法 3) 実習についての学生心得 4) 実習記録について 5) カンファレンスについて 6) 週間予定表について 7) 通学方法・服装について 8) 必要物品・注意事項について	※聴診器は各自持参する。		犬丸																					
臨地実習	<b>【実習の実際】</b> ●産業健診・予防医学センター(1日間) 1) 大川市の特徴を踏まえた健康問題・障がい、施設概要、法的規制や施策と関連させることができる 2) 保健活動の機能を理解し、センターにおける保健活動の内容を述べることができる ●通所介護サービス(3日間) 1) 介護保険制度における通所サービスの施設の概要・特徴・利用状況・サービス内容が理解できる 2) 通所介護サービスと通所リハビリテーションの施設の違い特徴がわかる 3) 利用者の通所介護の目的と活動内容について理解できる 4) 通所介護サービス利用者と積極的にコミュニケーションができる 5) 通所介護サービスにおけるレクリエーションについて考えることができる 6) サービス利用者の介護度に応じた自立支援への援助方法について考えスタッフと一緒に援助することができる 7) 実習反省会(最終日)	・高木病院:産業健診センターおよび予防医学センター ・デイサービスまたはデイケア	事前学習をして実習に臨む	教員が実習配置により指導に入る																					
終了実習後	実習のまとめ 1) 実習記録のまとめ・グループ討議 2) 実習の学びをグループで発表会・全体共有	学内	実習目標に沿って学びをまとめ共有	全教員																					
評価方法	在宅看護論Ⅱの実習評価表に基づき評価する。																								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院																								
参考図書・参考文献など	施設のHPや厚生労働省のHP 地域保健学 基礎看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論																								
備考	実習前までに、事前学習課題を済ませておくこと。																								

分 野	専門分野II	科目番号	単位数	2単位	
科目名	成人看護学実習 I	授業形態	臨地実習	時間数	90時間
担当教員		開講時期	2年次後期	曜日・時限	
授業の目的	目的 成人各期にある対象を理解し、発達段階や健康レベルに応じた看護を科学的かつ創造的に実施できる基礎的能力を養う。				
授業の目標	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>成人期にある対象の特徴をとらえ総合的に理解することができる。</li> <li>成人期にある対象の健康上の課題を明確にし、健康問題を解決するために看護過程のプロセスを踏まえて、看護が展開できる。</li> <li>対象のセルフマネジメントを助け、日常生活を円滑に行うための指導および対象の自己効力感を高める援助ができる。</li> <li>身体機能の一部を喪失した対象の機能回復をおよびセルフケア再獲得のための援助ができる。</li> <li>保健医療福祉チームの共同を通して連携の重要性を理解することができる。</li> </ol>				
授業の内容と方法	<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実習オリエンテーション(実習前、学内にて)           <ol style="list-style-type: none"> <li>成人看護学実習の目的・目標</li> <li>実習配置および実習施設・実習指導者の紹介</li> <li>実習日程・時間数・修得単位数</li> <li>具体的な方法および注意点</li> <li>実習前学習課題提示</li> <li>実習態度および施設使用時の注意点</li> <li>感染予防対策と健康管理</li> </ol> </li> <li>実習実施           <ol style="list-style-type: none"> <li>対象の理解               <p>看護の対象は、健康を保持・増進する人々 集団および個人</p> </li> <li>看護過程の展開               <p>成人と職業との関係をふまえた上で、健康問題や健康リスクを考え、援助する。 生活習慣や生活習慣病と関連させて、健康教育を通じた関わりを行う。</p> </li> <li>看護計画、評価のまとめの発表</li> <li>患者要約および実習の反省・まとめ</li> </ol> </li> <li>実習のまとめ(実習終了後、学内にて)           <ol style="list-style-type: none"> <li>個人の振り返り</li> <li>機能障害および健康レベルに沿ったまとめ</li> </ol> </li> </ol>		授業方法	学習課題	担当
	<p>【終了後レポート】</p> <p>指定された看護記録をもって評価する。</p>		柳川リハビリテーション病院での実習	既習の授業を振り返り事前学習をして臨む。  実習に関する学習と実習記録	渡辺他全教員
評価方法	実習評価表に沿った点数 実習への参加状況(態度、身だしなみなど)				
テキスト	成人看護学に関するテキスト全般 系統看護学講座 別巻 臨床看護総論 医学書院 看護技術関連のテキストおよびサブテキスト全般				
参考図書・参考文献など	必要時提示する。				
備 考					

分 野	専門分野	科目番号		単位数	1単位			
科目名	老年看護学実習Ⅰ	授業形態	臨地実習	時間数	45時間			
		開講時期	2年後期	曜日・時限	月～金			
担当教員	前島 文子 他 *科目責任:前島 文子	実務経験	前島:35年1月					
授業の目的	<p>目的 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と生活の場を知り、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状を理解する。</p>							
授業の目標	<p>目標 1. 老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を知り、老年期の発達課題が理解できる。      2. 老年期にある対象の特徴をふまえ、活性化に向けた日常生活の援助ができる。      3. 老年期にある対象の人格を尊重した援助ができる。      4. 加齢に伴う変化が日常生活においてどのような障害をきたしているか理解できる。      5. 高齢社会における保健医療福祉システムについて考えることができる。      6. 施設の概要を理解し、老年期にある対象がおかかれている現状を把握し、看護の役割について理解できる。</p>							
授業の内容 と 方法	<p>授 業 内 容</p> <p>介護老人保健施設での実習 利用者を一人担当し、コミュニケーションや必要な援助を行いながら、加齢に伴う高齢者の身体的・生理的・心理的な変化の理解を深める 介護老人保健施設:水郷苑</p>		授業方法	学習課題	担当			
1 週間	<p>介護老人福祉施設での実習 利用者を一人担当し、コミュニケーションや必要な援助を行いながら、加齢に伴う高齢者の身体的・生理的・心理的な変化の理解を深める 介護老人福祉施設:木もれ日苑</p>		実習要項参照		前島 他			
	<p>【終了後レポート】 指定された実習記録の提出</p>							
評価方法	実習目標の到達状況及び実習態度等を実習評価に沿って総合的に評価							
テキスト								
参考図書・参考文献など	必要時、指示							
備 考								